

2012  
秋

# フォトとちぎ

とちぎの味

モロのフライ

なすび食堂 (栃木市)

フォトコンテストに輝いた

西村悠香さん

シリーズ入 日本人らしい繊細な表現を

とちぎアーカイブ ここにも人の輪が

とちぎの味

紅葉 スポット

PHOTO SHOT  
地域を盛り上げる戦士たち  
とちぎの味

10年計画のROOMをめぐる

とちぎの味  
とちぎのメガソーラー発電所

# メガソーラー発電所

10年計画で580MWをめざす

「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」がスタートしたことから、全国でメガソーラー（大規模太陽光発電所）の建設が活発化しています。栃木県は「とちぎサンシャイン」プロジェクトに基づいて、災害に強い地域づくり推進のため、おおむね10年後を目標に、580MWの発電をめざしています。その一環として、一定の条件を整えた県有地や民有地などを建設候補地として選定し、発電事業者を募集しています。これまでに63の候補地を選定し、このうち10か所で発電事業者が決まり、事業化に向けた協議が進められています。今年7月には、藤井産業㈱（本社・宇都宮市）とシャープ㈱（本社・大阪市）の2社が、栃木県や関係市町などの「基本協定」を締結しました。そこで今回は、11月発電開始を目標に、急ピッチで建設が進められている「ソーラーファーム」取材しました。

「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」＝再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を用いて発電された電気を、一定価格で電気事業者が買い取ることを義務付けた制度で、7月1日にスタートしました。写真は、11月発電開始めざして建設が進む「大田原ソーラーファームⅡ」（大田原市の品川台工業団地内）

# 工業団地内で4MW発電

品川台工業団地（大田原市）に2基建設

藤井産業株式会社（宇都宮市）

大田原市蛭田にある品川台工業団地では、現在2つのメガソーラーの建設が進められています。どちらも藤井産業株式会社によるメガソーラー。

総面積約84畝の工業団地の6街区に進められている「大田原ソーラーファームII」は、27畝の用地に7038枚の太陽光パネルを敷き詰め、最大16MWの発電を行います。今年7月に着工、11月には発電開始予定です。

建設工事は、同社独自の工法「コンクリートを使わない、環境に配慮した施工方法」で進めています。地面だけでなく、基礎工事にもコンクリートを使用しません。コンクリートで固める代わりに、太い金属パイプを地中深く埋め込み、構造物をしっかりと

固定しています。

また、太陽光パネルを斜めに設置する架台は、管理しやすい高さに抑えられ、架台間には碎石が敷き詰められています。これは雑草の繁茂を抑えたり、太陽光の反射により、発電効率を上げるなどの効果があります。

公園を挟んで西側の1街区では「大田原ソーラーファームI」の建設が始まりました。規模はファームIIの1.4倍で、I・IIの合計最大出力は約4MWになります。

大田原ソーラーファームは、自立型発電と移動式蓄電池設備を備えた地域貢献型のメガソーラー。災害による停電時には、太陽光発電で蓄電し、避難所などに持ち運び、電気を供給することができます。



急ピッチで工事が進められている大田原ソーラーファームII



地面には碎石が敷き詰められています

大田原ソーラーファームIIには日本製の太陽光パネル7038枚が並べられます

基礎工事にはコンクリートを使わず、長さ約3mの金属パイプを地面に打ち込み、構造物を固定します



太い金属パイプを地面に打ち込み構造物を固定しています



完成予想図

真岡ソーラーファームでは8325枚の太陽光パネルを使用します



11月発電開始をめざす真岡ソーラーファーム



コマツ栃木

検索

### 廃工場跡地活用し2MW

コマツ栃木株式会社(宇都宮市)

真岡市の水戸部の工場跡地でメガソーラーの建設を進めているのはコマツ栃木(株)。同社は、主に建設機械の販売・整備などの事業を行っています。地球環境負荷低減活動の一環として、メガソーラー発電事業に参入しました。建設中の「真岡ソーラーファーム」は、敷地面積3.3畝。最大出力は約2MWです。同社は藤井産業(株)のグループ企業ということもあり、同様の「コンクリートを使わない、環境に配慮した施工方法」で建設を進めています。発電開始は11月の予定です。



真岡市水戸部に建設中の真岡ソーラーファーム



「ソーラーファーム」について話し合う藤井産業(株)の社員たち



藤井産業

検索

## 災害時の供給や環境学習にも

藤井産業(株)では、大田原市のほかに鹿沼市でもメガソーラーの建設を進めています。鹿沼市磯町にあった県の農業試験場鹿沼農場の跡地に建設中の「鹿沼ソーラーファーム」。敷地面積は2.3畝で、最大出力1.7MWの発電所です。建設に先立って同社は、県と鹿沼市と3者による「メガソーラー事業に係る基本協定」を結びました。協定には、災害時に避難所などに優先的に電力を供給することや、環境学習の場としても活用することなども盛り込まれています。

藤井産業は、宇都宮市平出工業団地内に本社がある、設立50年以上の電設・建設の資材・電気機器商社です。これまでは、産業用や家庭用の太陽光パネルの設置事業などを行ってきましたが、今年から新たな事業としてメガソーラー発電事業を開始しました。



7月10日に行われた基本協定締結式。左から鹿沼市長、藤井社長、栃木県知事

## 10か所で事業者決定

### 候補地も引き続き募集中

栃木県は、「とちぎ環境立県戦略」に掲げた「とちぎサンシャイン」プロジェクトに基づき、太陽光発電の飛躍的拡大を図り、災害に強い地域づくりを推進するため、メガソーラーの候補地を募集しています。栃木県は、提出された候補地について内容を確認した上で公表し、発電事業を行う事業者を募集しています。

9月10日現在で、栃木県が公表している候補地は63か所、このうち10か所の発電事業者が決定し、12か所で発電事業者選定中です。メガソーラー候補地の詳しい募集要項や候補地リスト、決定した発電事業者などは、栃木県のホームページでご覧いただけます。

とちぎのメガソーラー

検索

市食のオープン

ド派手な衣装に仮面を付け、颯爽と登場する○○戦隊□□レンジャー。子どものみならず、大人たちにも大ウケ。今や、地域のイベントを盛り上げるには、欠かせない存在にもなっています。ヒーローたちの年齢や職業、動機はさまざまですが、共通しているのは強い郷土愛。地域を盛り上げようと、集まった仲間たちです。それぞれのスタイルで、アイデアを出し合い、ふるさとのために、日夜活動が続けています。この秋、栃木県内は、地域のまつりや楽しいイベントも目白押し。ヒーローたちは、これからますます忙しくなります。



チャリンコ戦隊姫レンジャー



絢爛郷土カヌマン



わんぱく戦隊なしおレンジャー

奮闘中!

地域を盛り上げる戦士たち

クッキング戦士クックマン

8月22日に道の駅しもつけ（下野市）で開かれた「食のオープンスクール」。この日は16組の親子が参加し「水を使わない夏野菜カレー」づくりに挑戦しました。クックマンが子どもたちのために、やさしいレシピをつくってくれました



包丁の使い方を指導するクックマン



クックマン特製の「水を使わない夏野菜カレー」。水の代わりに県産のリンゴジュースを使いました



アシスタントのうっちーさん（右） 1時間ほどで、おいしいカレーが出来上がりました

# クッキング戦士 クックマン

「地球の『食』の平和を守るためクッキング星からやってきました」。流暢な口調と、あざやかな包丁さばきで、親子料理教室の講師を務めるクックマン。地域の祭りやイベント、遊園地、小学校の料理教室など、栃木県内各地に出没。その数は年間100ステージを超えます。クックマンは料理パフォーマンズのほかに、地元ラジオ・TV番組にレギュラー出演。調理師免許をもち、栃木県知事から「とちぎ未来大使」に委嘱されている異色のスーパーヒーローです。

後、ラーメン店を開店。もともと人前に出るのが好きで、プロレスファンだった店主、仕事と組み合わせると何かをやりたいと、熟慮の末がこのスタイル。純白の全身タイツに黄色いマント。食材の王様「卵」をイメージしました。特技はリンゴの早むき世界一だそうです。料理のレパートリーは、パラパラを踊りながらチャールハンを作る「パラパラチャーハン」をはじめ、子どもからお年寄り向けのメニューまで、クックマンだけに99（以上）。

「料理をエンターテインメントの域まで高めたい。そして多くの人が『食』に興味を持っていただければ」とクックマンは言います。



鹿沼市 約 100人  
カヌマン

鹿沼の天狗が作ったとい  
う不思議な仮面と、原色の  
派手なコスチュームに身を  
包んだ5人のヒーロー。1  
号(赤)はイチゴ、2号(青)  
はニラ、3号(黄)は鹿沼土、  
4号(ピンク)はサツキ、5  
号(緑)は木工業と、鹿沼  
市の名物がモチーフです。  
カヌマンの誕生は今から  
6年前。地元青年団のOB  
たちが、地域を盛り上げよ  
うと立ち上がりました。現  
在は、鹿沼市内に在住・勤  
務する若い人たち25人によ  
るボランティア団体「鹿沼  
ヒーロー計画」が運営して  
います。これまでに、市の  
PRイベントや交通安全・  
防犯キャンペーン、地域の  
祭りなど、市内の随所に登  
場し、場を盛り上げていま  
す。昨年1月には、こうし

た活動が認められ、鹿沼市  
長から「特別住民票」が交  
付されました。  
カヌマンには、常に白衣  
姿の怪しげな謎の人物がピ  
ッタリと寄り添っていま  
す。この人こそカヌマンを  
陰で操る研究開発本部研究  
員。「鹿沼ヒーロー計画」  
のリーダーのひとりです。  
「5人のカヌマンのほか、  
白衣姿の博士風サブキャ  
ラ、それに17人ほどのテレ  
ンコ軍団(悪役)もいて、  
コント仕立てのショーも演  
じます。メンバーは、郷土  
愛に満ちた一般市民。衣装  
は手作り、仮面の中は毎  
回違う人です。彼らは、嫁  
や家族の応援やら失笑を受  
けつつも、果敢にテレノコ  
軍団と戦い、鹿沼の平和を  
守るのです」と研究員。

鹿沼市出身のロンドン五輪団体銀メダリスト平野早矢香さん(卓球)の祝賀パレードで声援を送るカヌマン



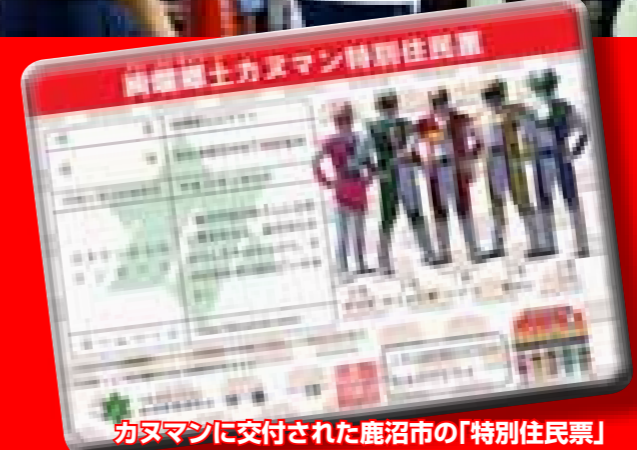
とちまるショップ(東京)で行われたPRイベント。写真右端は鹿沼市長



キャンプ場オープンの記念イベント



交通安全キャンペーン



カヌマンに交付された鹿沼市の「特別住民票」



カヌマンは子どもたちに大人気

健康づくり体操と各地に広がっています。

お年寄りの保育園・幼稚園での食育やお遊戯に、

ベジタマンドダンスは、

## チャリンコ部隊 姫レンジャー

カラフルな自転車に乗って颯爽と登場する5人のヒロイン。姫レンジャーは、那須烏山市の「特殊PR部隊」として今年3月にデビューしました。同市で地域活性化事業を推進している「まちづくり合同会社」が、ダンスが得意な10〜20代の市内在住の女性を公募し、編成しました。地域に伝わる「蛇姫様」をイメージした衣装で、ダンスパフォーマンスを披露し、イベントを盛り上げています。最近話題になっているのがベジタマンドダンス。子どもたちの食育と、野菜栽培農家への応援メッセージソングとして作られました。ノリのいいリズムと、やさしい動きの



伝説の「蛇姫様」をイメージしたコスチューム



結成記念発表会で姫レンジャーのダンスを披露するヒロインたち



「姫レンジャー」の活躍は <http://machidukuri3636.sblo.jp/> でご覧になれます

防犯キャンペーンのお手伝いも行いました

災害にめげず、みんなでがんばろう！と呼びかける「なしおレンジャー」



「出陣まつり」を盛り上げる「なしおレンジャー」



地域の盆踊りにも参上

毎年10月の第4日曜日に開催される「那須野巻狩まつり」は、那須塩原市を代表する祭りのひとつ。前日には、那須塩原駅近くで「那須野巻狩大將鍋出陣式」が行われ、多くの人でにぎわいます。なしおレンジャーは、ここに参上！。怪獣とのバトルを繰り広げます。テーマ毎回、地域で話題になっていること。なしおレンジャーは、社会派ヒーローなのです。昨年のテーマは、被災地の復興を願う「がんばろう！日本！」。ヒーローも怪獣も共にがんばろう！と締めました。今年も、身近な問題をテーマにした寸劇を計画しています。

## わんぱく部隊 なしおレンジャー



「なしおレンジャー」は、地域の保育園の保護者と職員とが協力して「ローカルヒーローをこどもたちに」と4年前に誕生しました



# 紅葉 スポット



この写真は「とちぎフォトライブラリー」からダウンロードできます

## 那須岳 (那須町)

那須岳(茶臼岳)は、標高1915mの活火山で、今も白い噴煙を吐き続けています。那須連山のうち、主峰の茶臼岳と朝日岳・三本槍岳・南月山・黒尾谷岳は、那須五岳と呼ばれ、那須のシンボルとして親しまれています。茶臼岳の山頂付近は硫黄の臭気が漂い、植物はほとんど見られません。9合目まではロープウェイがあり、山頂近くまで上ることができます。紅葉は例年9月下旬から始まり、10月上旬に見頃になります。ナナカマド、ウルシ、ダケカンバなどが鮮やかに色づきます。



## 大沼園地 (那須塩原市)

塩原温泉から日塩もみじラインで湯本塩原を経て料金所の500m手前を左折、少し進むと富士山(新湯富士)の東側に広い湿原があります。大沼園地は、自然研究路が整備され、バリアフリーの木道もあります。水芭蕉の群生やモリアオガエルの産卵などで知られますが、秋の紅葉も美しいです。10月下旬から11月中旬が見頃です。

## 井頭公園 (真岡市)

真岡市の中心部から北へ約5kmに位置しています。93・3畝の広大な敷地には、コナラやクヌギ、アカマツなどの丘陵地と雑木林が広がり、野鳥の姿を目にしたり、紅葉など四季折々の自然の表情が楽しめます。10月から11月が見頃です。



## 金精峠 (日光市)

栃木県と群馬県との境にある標高2024mの峠です。峠の下をトンネルが抜けていて、トンネルの入り口から峠に登る道が開かれています。峠からは、湯ノ湖や戦場ヶ原、日光の山々が一望できます。10月上旬から中旬が見頃です。

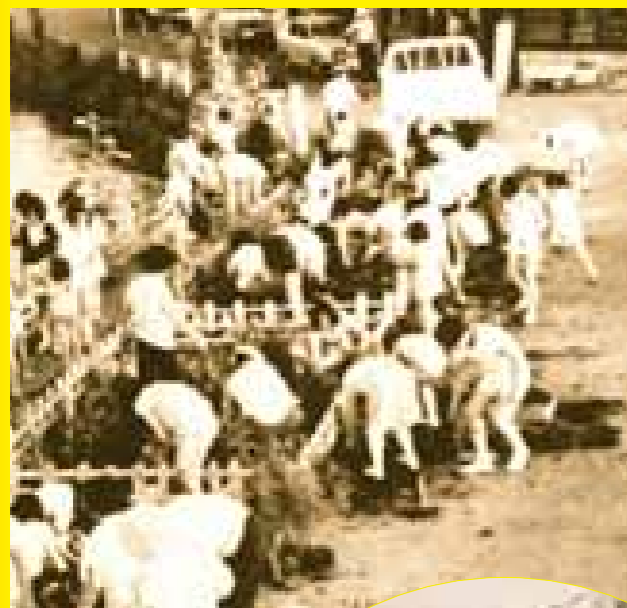




那須町伊王野の温泉神社で



毎月宇都宮駅前を清掃する「美しい築瀬をつくる会」の人たち



子供会や老人クラブは街を花で飾ろうと花壇の手入れ



小舟を使って河川清掃

宇都宮市築瀬地区の人たちは毎月第二日曜日の『県民清掃の日』に清掃活動や花いっぱい運動を続けながら、地域の美化に努めている。同地区ではこのほかにも夏祭りや体育祭、歩け歩け運動などを通して、しなやかに近隣愛を深めている。(広報誌「とちぎ」77年10月号より)

(宇都宮市)

# 自治会ぐるみで清掃奉仕

班ごとに開いている活動報告



『愛育の日』に乳児の体重測定

ここにも人の輪が  
1977年3・10月号より

# 地域ぐるみで子育て支援 (足利市)



地域内の全家庭を回りながら母子の健康と成長を見守っている主婦グループが足利市にある「足利市母子愛育会」で、各区の班員たちは46年10月の発足以来、忙しい家事の合間をぬって活動している。活動の努力が実ってかつては高かった乳幼児の死亡率が大幅に減るなどの実績をもたらしている。

(広報誌「とちぎ」77年10月号より)



# 日本人らしい繊細な表現を

ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミーに留学

宇都宮短期大学附属高等学校2年

西村 ゆうか 悠香さん

クラシカルバレエアカデミー  
S.O.U. 宇都宮 所属

## バレエのきれいな動きに魅了

世界最高峰のバレエ学校「ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー」の留学生オーディションが7月14日と15日、栃木県総合文化センター（宇都宮市）で行われました。オーディションには、プロのダンサーを目指す16歳から19歳までの男女25人が応募。審査の結果、6人が合格しました。このうち栃木県からは、宇都宮短期大学付属高校2年生の西村悠香さんが合格しました。栃木県の合格者は2年ぶり、7人目です。西村さんら6人は9月から、来年6月までの10か月間の日程で（成績により延長の場合もあります）芸術の都ロシア・サンクトペテルブルクで留学生生活を始めました。

同アカデミーの留学生オーディションは、栃木県総合文化センター（とちぎ未来づくり財団）が日本バレエ界の発展と国際交流などを目的に、1996年度から毎年実施しています。国内では唯一の公認オーディションで、これまでに82人が留学。修了生は、国内外のバレエ団で活躍したり、後進の指導に当たるなど、それぞれの道で活躍しています。

西村悠香さんがバレエを始めたのは6

歳のときでした。親戚の子が習っていたことから、母親に勧められました。

「姿勢正しく、女の子らしい立振舞いをして欲しいと願い、バレエ教室に通わせてくれたそうです。当時は、まだ幼稚園の年長組でした。教室でレッスンを受けるお姉さんたちのきれいな動きを見て、バレエに魅かれるようになりました」

## 国際コンクールで世界を実感

本格的にバレエをやりたいと、現在所属する教室に通い始めたのは、小学4年生のとき。その1年後、初めて出場した全国コンクール（オールジャパンユニオンバレエコンクール）で児童部門の奨励賞。翌年には、同コンクール優秀賞。さらに、高校生になって、バレエコンクールin横浜に出場し、第2位。文化庁主催の全日本バレエ・コンクールでは第4位に輝きました。

そして今年2月、厳しい予選を通過し、世界が注目する第40回ローザンヌ国際バレエコンクールで、セミファイナリストになりました。

「私にとって初めての国際大会でした。そこで感じたのは、世界の人たちの素晴らしい演技でした。大きな違いは、たと

え途中で間違っても、自信たっぷり演技を続けることです。私は間違うと、ちよっと引いてしまっって、それがいかにも自身がないように見えてしまいます。この大会で世界のバレエを実感しました」

## ロシア語学びレッスンを吸収

とちぎ未来づくり財団では、毎年ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミーの教師によるレッスン講座を実施しています。西村悠香さんは、これに毎回参加。その度にワガノワへの想いは強まりました。「小学生の頃からずっと憧れていました。でも、ワガノワは、厳しいメソッドを持つ学校としても知られています。可能な限り3年くらい頑張っって、日本ではできないことをいっぱい吸収したいです。技術的なことはもちろんですが、とくに表現の方法を学び、日本人らしい繊細な動きが表現できるようにしたいです。そのためには、まず言葉がわからないと。ロシア語を勉強し、レッスンをしっかりと吸収したいです。そして修了後には、海外のバレエ団に入れたら最高に素晴らしいことですが、日本のバレエ団も良いと思います。その舞台の真ん中で演技することが夢ですね」

# モロのフライ (栃木市)



**なすび食堂**  
栃木市万町 7-3  
☎ 0282-23-1010

栃木県内では古くからサメ料理が食されています。「モロ」や「サガンボ」と呼ばれ、煮つけやフライにするのが一般的です。栃木市にある「なすび食堂」では、モロのフライが付いた「栃木定食」が好評です。カラッと揚げたモロのフライは、臭みがなく淡白で上品な味わい。魚というよりは、柔らかいササミのような食感です。特製のタルタルソースをかけると、モロの風味がいっそう引き立ちます。モロのフライに、うどん、ご飯、煮物、野菜などが付いて980円。ボリュームたっぷりですが、全部あわせても788kcal。モロは栄養豊富で美容にもよいそうです。なすび食堂は、社会福祉法人が経営する店舗で、ハンディキャップがある人も一緒に働いています。

## フォトとちぎ 2012 年秋号

2012年10月1日発行 発行責任 栃木県広報課 編集発行 栃木県広報協会  
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田 1-1-20 ☎ 028-623-2191